

平成 17 年 2 月 4 日

業績予想の修正に関するお知らせ

上場会社名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
 (コード番号 7707)
 本社所在地 千葉県松戸市上本郷 88
 問い合わせ先 取締役業務本部長 秋本 淳
 TEL 047-303-4800 URL <http://www.pss.co.jp>

最近の業績動向等を踏まえ、平成 16 年 8 月 6 日の決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 連結業績予想

中間期連結業績予想の修正 (平成 16 年 7 月 1 日 ~ 平成 16 年 12 月 31 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,200	36	36
今回修正予想 (B)	1,395	93	109
増減額 (B - A)	195	57	73
増減率	16.3	-	-
(ご参考)前中間期実績 平成 15 年 12 月期	919	210	215

通期連結業績予想の修正 (平成 16 年 7 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想	2,800	100	100
今回修正予想 (B)	2,900	100	115
増減額 (B - A)	100	200	215
増減率	3.6	-	-
(ご参考)前期実績 平成 16 年 6 月期	2,506	174	181

2. 単体業績予想

中間期単体業績予想の修正（平成 16 年 7 月 1 日～平成 16 年 12 月 31 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	1,085	26	26
今回修正予想（B）	1,220	92	108
増減額（B - A）	135	66	82
増減率	12.4	-	-
（ご参考）前中間期実績 平成 15 年 12 月期	798	181	181

通期単体業績予想の修正（平成 16 年 7 月 1 日～平成 17 年 6 月 30 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想	2,570	120	120
今回修正予想（B）	2,570	95	110
増減額（B - A）	-	215	230
増減率	-	-	-
（ご参考）前期実績 平成 16 年 6 月期	2,281	117	410

3. 連結業績予想の修正理由

中間期連結業績予想の修正理由

主力 OEM 先の 1 社であるキアゲングループ向けの販売およびドイツ子会社で販売している OEM 先向けのプラスチック消耗品が、予想を上回り好調に推移したこと、また、第 1 四半期に売上計上した韓国ファイナンス・テクノロジー・インターナショナル社への販売権付与契約などもあったことから、売上高は予想を上回る 1,395 百万円（前年同期比 51.8%増）の見通しとなりました。これに伴い、売上総利益も 551 百万円（前年同期比 53.1%増）の見通しであります。しかしながら、販売費及び一般管理費が予想を上回る費用計上見通しとなったことから、経常損失は 93 百万円となり、前年同期比では 117 百万円の赤字幅圧縮となりますが、予想比では 57 百万円の下方向修正となりました。

販売費及び一般管理費の増加には、開発費の増加を中心として、いくつかの要因が重なっていますが、その主なものについて、以下に既述いたします。

(1) 三菱化学ヤترون社と進めている小型免疫化学発光測定装置「PATHFAST」に関しまして、昨年 12 月の市場投入を目指し、共同開発を進めてまいりましたが、主としてソフトウェア開発・検証に予想以上の時間を要することとなり、追加開発費が発生しております。それに伴い、実際の上りも 3～4 ヶ月伸びる結果となりました。ただし、当社から三菱化学ヤترون社に対しては、初期在庫確保の観点から、ハードウェア(装置)の出荷は開始されております。今後、ソフトウェアの検証完了を

もって、本格的な製品販売となる予定であります。

(2) 昨年 12 月の市場投入に向け、開発活動を続けてきた糸状 DNA チップ「ハンディバイオストランド」ですが、何とか製品化の目途がつき、12 月の分子生物学会には製品展示を行いました。しかしながら、量産化に向けては、追加開発費が発生しております。現在、初回の販売在庫 50 台の製品製造に取り掛かっており、3 月中での本格販売開始の予定であります。

(3) 当社システムに搭載可能な試薬に関するマーケティングの結果、試薬の開発項目が増加しております。これまでは、DNA や RNA の単純な抽出・精製を目的としたものでしたが、今後の業界需要は、遺伝子発現解析や SNPs 解析に対するサンプルプレップや一貫前処理システム等、具体的な目的と直結した試薬と自動化システムが求められてきています。こういった動きに対応するため、国内外の様々な試薬メーカーとの接触を図っており、当社システムに搭載可能な試薬を集め、製品化に向けたアプリケーション開発を実行しております。

(4) 「All Process in Tip Technology(注 1)」(オール・プロセス・イン・ティップ・テクノロジー)開発の進展に伴い開発費が増加しております。当社の特許技術として、すでに事業化されている磁性体の反応工程制御技術である「Magtration Technology」(マグトレーション・テクノロジー)に加えて、当社は磁性体以外の素材にも注目し、ほぼ 1 年前から、「各種の非磁性体素材を搭載したチップ」とそのシステム開発に取り組んできております。この開発の目的は、ポスト遺伝子網羅的解析としての遺伝子発現解析、有用タンパク質の定量測定、バイオマーカーのマルチプレックス測定など、今後の本格的なシステム需要に直結したもので、当社が以前から取り組んできた「Magtration + 」の実用開発のスタートと言えるものです。現在、非磁性体素材の技術を持つ事業体との提携も進めており、事業の柱の拡大につなげたいと考えております。

(注 1) Tip(ティップ)とは、液体の吸引突出に利用されるスポイトのようなものであり、液量をコントロールできる唯一の道具であります。(DNA チップなどの Chip とは異なります。)この内部に様々な素材を封入し、あらゆる反応をチップ内部で行うことにより、非常にシンプルなシステム構築が可能となる構想を持っています。

上記以外にも、新たに開発活動に入った新規テーマがある他、事業活動の活発化により、旅費交通費などいくつかの費用項目が予算を上回る推移となっております。その他、業務提携先である英国テブネル・ライフサイエンス社の株式を保有している関係から、投資有価証券評価損 14 百万円を特別損失に計上する見通しであります。

通期連結業績予想の修正理由

売上高に関しましては、記述のとおり上期で当初予想比 195 百万円の増加予想となりました。下期は、上期に引続きドイツ子会社で扱っているプラスチック消耗品が順調に出荷されると予想されることから 40 百万円の増額、一方で、三菱化学ヤトロン社の新規 OEM 製品の販売延期の影響などから 135 百万円減額し、差引 95 百万円の下方修正といたしました。(三菱化学ヤトロン社に関しましては、上期に初期在庫の確保を行いましたので、下期には大きな出荷は期待できないと思われまます。)したがって、通期の売上予想は 2,900 百万円(当初予想比 100 百万円の増加)を見込んでおります。売上総利益は、上期見通し等を勘案し 1,150 百万円(当初予想比 20 百万円の増加)の予想と致しました。

販売費及び一般管理費に関しましては、上期で当初予想比 150 百万円の増加予想となりました。下期に関しても、様々な引合いや開発案件の推進状況に変化はありませんが、大学や国公立研

究機関など外部機関との共同研究費は、上期に集中しておりますので、その分の費用は抑えられるものと考えています。その他諸費用の増減も勘案し、通期の販売費及び一般管理費は 1,240 百万円(当初予想比 240 百万円の増加)の予想といたしました。したがって、予想営業利益は 90 百万円(当初予想比 220 百万円の減額)となりました。

営業外収支は、当初の通期予想では支払利息などにより 30 百万円を見込んでおりましたが、上期で為替差益などによる営業外収益 19 百万円が発生しておりますので、差引 10 百万円の見込みといたしました。したがって、予想経常利益は 100 百万円(当初予想比 200 百万円の減額)となりました。

4. 単体業績予想の修正理由

修正理由は、「3. 連結業績予想の修正理由」と同様であります。

5. その他

当社は、ロシグループおよびキアゲングループという優良な OEM 先を確保しており、三菱化学ヤترون社という新規 OEM 顧客との製品も上市直前の状況となっております。また、複数の新たな商談も進んでいることから、事業自体は順調に拡大の方向に進んでいるものと認識しております。

一方で、OEM 先との連携、装置開発、試薬開発など様々な事業活動を並行的に進めていること、また、継続的な技術開発が加速していることから、ここ数年で人員規模も倍以上に急拡大しており、事業収支と諸費用のバランス設定に課題を抱えている状況であります。先日公表した社内組織体制の見直しは、こういった問題に対処していく目的もあり、予算に関するきめ細かい対応を行っていく方針であります。

今下期の事業活動に関しましても、いくつかの新規案件を速やかに事業に結びつけ、それらを売上計上し業績貢献できるよう懸命に活動し、今回の修正予想を改善できるよう努力してまいりますので、何卒、当社の中長期的な事業進展をご理解いただき、引続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上